

平成20年度 水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

1. 市町村の概要

(1) 市町村名

岐阜県揖斐郡揖斐川町

(2) 派遣対象地域

徳山ダム周辺地域

(3) 町の概要

岐阜県の最西部に位置し、北側は福井県、西側は滋賀県と接しています。平成17年1月31日に揖斐川町・谷汲村・春日村・久瀬村・藤橋村・坂内村の1町5村が合併し東西方向約20km、南北方向約35kmで、ほぼ南北に長い長方形を成し、総面積は803.68km²で岐阜県(10,598.2km²)の7.6%を占めています。

また、92.4%が森林で、農用地が2.3%、宅地が0.8%です。

(4) 町の自然

標高1,300mを超える伊吹山、金糞岳や、1,200m級揖斐川源流の冠山、貝月山などの緑豊かな山岳部、揖斐川その支流、溪谷、滝、池など豊かな自然環境に恵まれています。

揖斐川は町の中央部を北西から南東に流れ、美しい揖斐峡、小津溪谷、不動滝、花房滝、夜叉ヶ池など、自然豊かで風光明媚な景観を形成し、他に例を見ないヤシゲンゴロウや清流のシンボルであるイワナやアマゴ、アユなどの魚が生息する環境が保たれています。これらの自然環境を生かして、魚釣りや水遊び、キャンプなどが楽しむことができます。

(5) 町の観光

西国三十三番満願霊場として知られる谷汲山華厳寺や両界山横蔵寺、お城の中がプラネタリウムになっている藤橋城西美濃プラネタリウム、揖斐川を中心にアユを味わうことが出来る観光ヤナ、日本一の総貯水量で平成20年春に本格運用をした「徳山ダム」、毎年11月の第2日曜日に開催し、第21回目を迎えた「いびがわマラソン」、町内に点在する温泉・温浴施設などの観光資源がある。



(6) 徳山ダム周辺地域の現状と課題

揖斐川水源地域は、豊かな自然と多くの観光資源に恵まれている。そして、総貯水量日本一を誇る徳山ダムが完成し、新たな観光拠点として注目され愛知県、名古屋市、岐阜市などをはじめとする都市部からの観光客を集めている。

本町としても、多くの人たちとの交流と連携を図りながら、徳山ダムの大切さや水と森を守る重要性への再認識や、旧徳山村民への感謝の気持ちの下、流域みんなの思いが相互に支えるような流域にしたいと考えている。今後、水源地域の利活用を考えた時、流域の連携が不可欠となってくる。今後の揖斐川水源地域の自然環境の保全やダム等の観光資源の利活用を通じた地域活性化を図りたい。

2. 水源地域対策アドバイザー派遣概要

(1) 第1回水源地域アドバイザー派遣概要

開催日時 平成20年7月23日～25日

◆ 1日目

現地視察

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
揖斐川町水源地域ビジョン担当参与	小森 勝義
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	林 将史

視察場所

- いびがわ温泉 藤橋の湯
- 徳山民俗資料収蔵庫
- 道の駅 星のふるさとふじはし
- 水と森の学習館

◆ 2日目

現地視察

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
揖斐川町水源地域ビジョン担当参与	小森 勝義
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一

視察場所

- 徳山会館
- 徳山ダム
- 冠峠
- 本郷望郷広場
- 藤橋城西美濃プラネタリウム
- 西美濃天文台
- 藤橋歴史民俗資料館
- ふじはし星の家
- 自然舎
- 道の駅 夜叉ヶ池の里さかうち
- ダチョウ飼育場
- 貝月リゾート
- 両界山横蔵寺



▲徳山ダム視察

★ 3 日目

現地視察

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一

視察場所

- ・ 谷汲山門前

アドバイザーより現地視察での意見

- ・ 「小さなよかつた」を連携すると良い
- ・ どちらにも得が必要である
- ・ 地元の人が出る幕が必要（役に立つ自覚）
- ・ 多様なメニューをたてるとよい
- ・ 最初か強制をさせる（例えば、学校・大学・会社など）
- ・ 大学、ライオンズクラブと連携してみてもどうか
- ・ 毎年新しいメンバーとなる大学、学校などと連携する
- ・ やる気のある人、当てになる人を育てる
- ・ 資格を認定する（初級、中級、上級など）
- ・ 認定者のステージが必要である

- ・見学者（子どもなど）をどう活かすか
- ・ダムに絡めたメニューを充実する
- ・各望郷広場で各地区の同窓会を企画する
- ・初めからであり、何でも取り決まる

国土交通省水源地域対策課 竹川氏より

- ・群馬県は民有地を対象とした企業の森を推進している
- ・新規予算でガイドライン作りを公募する

(2) 第2回水源地域対策アドバイザー派遣概要

開催日時 平成20年9月24日～26日

◆1日目

現地視察

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	林 将史

視察場所

- 東光寺炭窯
- NPOいびがわみずみズエコステーション



▲東光寺炭窯視察

◆2日目

現地視察（午前）

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	林 将史

視察場所

- かすがモリモリ村 リフレッシュ館
- 長者の里、森の文化博物館
- 諸家の里

「町内観光交流施設連携のためのワークショップ」(午後)

開催場所 ラーニングアール横蔵にて

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
揖斐川町水源地域ビジョン担当参与	小森 勝義
揖斐川町水源地域ビジョン推進課	日下部 芳文
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	林 将史
諸家の里	田中 正敏、田中 験意
(株)藤橋ビレッジ	長屋 昭二
財団法人 いびがわ	中野 敦子
森の文化博物館	藤原 千蔵
NPOぎふいび生活楽校	小林 正美、高橋 満治、斉藤 邦雄
岐阜大学地域科学部	有本 信昭
山菜の里いび	小寺 春樹
揖斐川町商工会	大口 薫、服部 均、牧村 英幸、桐山 豊



▲全体会風景

テーマ みんなで考え、みんなで創る！宝の山の活かし方 ～町内施設の連携～

1 班

(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一
諸家の里	田中 正敏
森の文化博物館	藤原 千蔵
NPOぎふいび生活楽校	斉藤 邦雄
揖斐川町商工会	大口 薫、桐山 豊

2 班

揖斐川町水源地域ビジョン担当参与	小森 勝義
(株)藤橋ビレッジ	長屋 昭二
NPOぎふいび生活楽校	小林 正美
揖斐川町商工会	服部 均、牧村 英幸

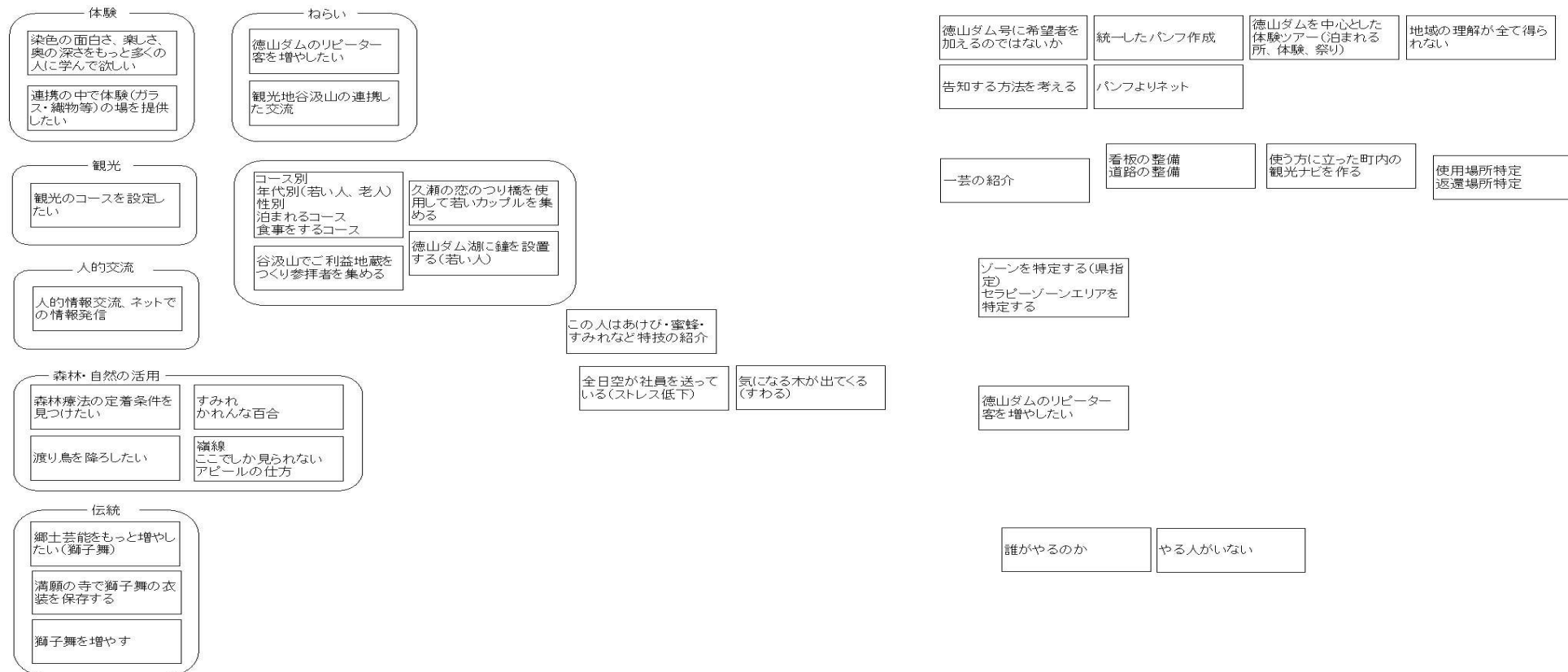
3 班

揖斐川町水源地域ビジョン推進課	日下部 芳文
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	林 将史
諸家の里	田中 験意
財団法人 いびがわ	中野 敦子
山菜の里いび	小寺 春樹

ワークショップの意見は次のとおりです。

みんなで考え、みんなで創る！宝の山の生かし方！
～町内施設の連携交流～

1班
 田中 正敏、藤原 千蔵、斉藤 邦雄、大口 薫、桐山 豊、成瀬 富士一



みんなで考え、みんなで創る！宝の山の生かし方！ ～町内施設の連携交流～

2班
長屋 昭二、小林 正美、服部 均、牧村 英幸、小森 勝義

情報交換には団体の『わく』にこだわらない

サポート体制づくり

情報提供の場を作る	リーダーを決める	常設の連携センター(協議会)情報交換
PR方法	染色の面白さ、楽しさ、奥の深さをもっと多くの人に学んで欲しい	1本化を図るための総合観光センターの設置 体験、グルメ、観光(見る)、ルート、宿泊
広報・宣伝・PR	パンフレットの統一	各施設の特徴を表わす(つくる)
足回り	営業と集客	ルートを作る
観光業者へのアピールを協同で行う		

揖斐川町の魅力は何か誰にとっても魅力なのか

町の人はとにかくおもしろいもの、楽しいものを探しまわっている

自然恋しさ

人恋しさ

体験できるものを出す

遊ぶ
釣り、木のぼり

学ぶ
体験・経験

食べる
ここだけ・今だけ・あなただけ

泊まる
ゆっくり・安く

自然保護のため
シャトルバス・人力車・馬車・大駐車場

観光産業としての施策
みやげもの・食事・宿泊・遊園地・動物園

協議会を一つにまとめる(目的別に)

みんなで考え、みんなで創る！宝の山の生かし方！ ～町内施設の連携交流～

3班
中野 敦子、小寺 春樹、田中 駿意、日下部 芳文、林 将史

車両すてて歩き回ろう歴史探検

お互いの施設の見学会

徳山ダム号みたいな町の観光地などを巡るツアー

町民が町内を知るツアー

特産品を道の駅である程度の規模のコーナーを作る

食事マップ一覧を作成

観光施設を一覧化する

町内施設を十分利用した観光ルートを作成する

施設の働く人達との交流から始める

人間性を育てたい

人と人との関係が大切である

伝統祭りを一ヶ所で合同開催

揖斐川町のイメージづくりを共有化

外部との交流をしない

集落の未来を考えた継続性のある交流を

大学生との交流
大学祭にあばちゃんたちが参加

町内観光交流施設連携のためのワークショップ記録 第1班

主な意見

項目	内容	ねらい	進め方、問題点
体験	<ul style="list-style-type: none"> 染色の面白さ、楽しさ、奥の深さをもっと多くの人に学んでほしい。 連携の中で体験（ガラス、織物などの場を提供したい） 	<ul style="list-style-type: none"> 徳山ダムのリピーター客を増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 徳山ダム号に加えられないか 統一したパンフレットが加えられないか 徳山ダムを中心とした体験ツアーのパンフレットの作成（泊まれる所、体験、祭り等） 交流について、地域住民の理解が得られていない 告知する方法を考える（パンフレットよりネット）
観光	<ul style="list-style-type: none"> 観光コースを設定したい 谷汲山観光と連携したい 	<ul style="list-style-type: none"> コース別、年齢別、性別のコースを設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人、年配者向きのコース別を設定する 泊まれるコース、食事コースを設定する 谷汲山に御利益地蔵を作り参拝者を集める 看板（使う人の立場になって）、道路の整備 町内の観光ナビを作り貸し出す（受け渡し場所特定して） ダム案内で昼食場所を良く聞かれるので、リストなど作成する
人的交流	<ul style="list-style-type: none"> 人的情報をネットで発信 	<ul style="list-style-type: none"> 自然も大切であるが、交流は人によって集る 	<ul style="list-style-type: none"> 一芸の人を紹介する（例えば、蜜蜂づくり、すみれの識別など） 個人情報の保護考える
自然の活用	<ul style="list-style-type: none"> 森林療法の定着条件をみつけない 渡り鳥を降ろしたい（白鳥・なべ鶴） 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる木がでてくる オンリーワンを活用する（ここしか見られない、すみれ、可憐な百合など、稜線） 	<ul style="list-style-type: none"> ゾーンを指定する、（県指定） セラピーゾーンを指定する 例：全日空の社員をストレス解消のため活用している事例がある
伝統	<ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能をもっと増やしたい 特に獅子舞をもっと増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 獅子舞を活用した交流振興 獅子舞は全国に数多く行われている、これを活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 獅子舞の衣装を谷汲山に奉納する それを展示する 誰がやるのか、やる人がいないのではないか

町内観光交流施設連携のためのワークショップ記録 第2班

主な意見

項目	内容	ねらい	進め方、問題点
情報	・各施設の情報交換会を行う	・各施設の枠にこだわらず相互協力できる体制を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政サイド（観光協会等）で実施しようとする各施設とも公平な取扱いをしなければならないということがあるので、当面やる気のあるものが中核となって動く ・情報交換を積極的に進める ・それぞれの施設の特徴を活かし、お互いがサポートしあう体制を作る ・情報センターのような施設があり、そこに聞けばある程度のことわかるような情報提供の場を作る ・常設の連携センター（協議会）を作る「情報交換会」 ・一本化を図るため統合観光センター（体験・グルメ・観光「見る」ルート・宿）を設置する ・定期的な情報交換会を開く
広報	・広報等の統一化	・広報等はできるだけ一つのものにまとめ共同で広報活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等は統一したもので行う ・パンフレットの統一化を図る ・営業活動は協力しあって、手分けして行う。 ・観光業者へのアピールを共同で行う
魅力づくり	・揖斐川町の魅力を見つける	・揖斐川町の魅力は何か、だれにとっての魅力なのか、再発見する	<ul style="list-style-type: none"> ・自然恋しさ、人恋しさに対応したメニューづくりをする ・観光ルートを作る ・体験できるものを出す 遊ぶ（釣り、木登り）、学ぶ（体験、経験）、食べる（ここだけ、あなただけ）、泊まる（ゆっくり、安く） ・町の人とはとにかくおもしろいもの、楽しいものを探し回ってる ・自然保護を全面に押し出す（シャトルバス、人力車、バス） ・各施設の特徴を表わす（作る） ・観光産業としての施策が必要（土産物・食事・宿泊・遊園地・動物園）
交通	マイクロバスなど、お互いに融通しあう	マイクロバスなど、お互いに融通しあう	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設ごとの送迎用バスはむだ

町内観光交流施設連携のためのワークショップ記録 第3班

主な意見

項目	内容	ねらい	進め方、問題点
観光交流	・町内の観光施設を知る	・町内には観光施設がたくさんあり職員も全て把握できていないので、まずは施設を知ることが大切である	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの施設見学などをして、施設で働く人たちとの交流から始める ・町民が町内を知るツアーを実施 ・徳山ダム号みたいな町内の観光地などを巡るツアーを実施したい ・地元の人しか知らない歴史探検の実施
広報	・広報等の統一化	・町内の観光施設のパフレットを作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設を一覧化する ・食事処マップの作成 ・町内施設を十分に利用した観光ルートの作成 ・町の特産品を道の駅である程度のコーナーを設置したい
交流	・観光客などとの交流を大切にする	・観光客などとの交流を大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を考えた継続性のある交流をしたい ・リピーターを増やすためには、人と人との関係が大切で「また来よう」と思えるような接し方ができるような人間性も育てていきたい ・大学生と交流して良い関係が築けている。



▲ワークショップ風景（第1班）



▲ワークショップ風景（第2班）



▲ワークショップ風景（第3班）

企画案 1班

その1

- <タイトル> 郷土芸能をもっと増やしたい
- <すすめ方> 満願の地で獅子舞の衣装を保存する。獅子舞を増やす
- <注意> やる人がいないのでどうするか

その2

- <タイトル> 人的情報をネットで発信したい
- <ねらい> リピーターは人によって集まる
- <すすめ方> 一芸の人の紹介をする（例えば物づくり、蜜蜂、すみれなど）
- <注意> 個人情報の保護

その3

- <タイトル> 森林、自然を活用したい
- <すすめ方>
 - ・森林療法の定着をしたい→ゾーンを指定する
 - ・渡り鳥を降ろす（なべ鶴）
 - ・すみれ、華麗な百合を売り物にする

その4

- <タイトル> 観光コースを設定したい
- <ねらい> コース別（年代、性別）にする
- <すすめ方>
 - ・久瀬の恋の吊橋を利用して若いカップルを集める
 - ・徳山ダム湖に鐘を設置する
 - ・看板を使う人の立場になって整備する
 - ・町内の観光ナビを作る（貸し出し場、返納場の設置）
 - ・谷汲山でご利益地蔵を作り参拝者を集める

その5

- <タイトル> 体験学習を進めたい（染色・織物等）
- <ねらい>
 - ・徳山ダム利用客のリピーターを増やす
 - ・谷汲山利用者のリピーターを増やす
- <すすめ方>
 - ・徳山ダム号に希望者を加える
 - ・徳山ダムを中心とした体験ツアーを作る（体験、泊まれる場所、祭りなど）
 - ・統一したパンフレットの作成をする
- <注意> 地域住民の理解を得る

企画案 2班

その1

- <タイトル> 「みりよく」作り

- <ねらい> 遊ぶ、学ぶ、体験、食べる、観光
<すすめ方> 「民宿・民泊」で人の恋しさ、自然の恋しさにふれあう（観光、もちつき、稲刈り、山仕事など）

その2

- <タイトル> 情報
<ねらい> 情報の発信（共通認識）
<すすめ方> ・常設の連絡センターの設置（ボランティアで行う「粹」にこだわらない）
・共通の広報（パンフレット・ホームページ）
<注 意> 観光協会、行政ではむりがある

企画案 3班

その1

- <タイトル> マップに載っていない歴史散歩
<ねらい> 穴場の場所をみんなで巡る
<すすめ方> ・町内の地元の人しか知らない場所を調べる
・地元の歴史に詳しい人にガイドをしてもらう

その2

- <タイトル> 自分の町を知ろう
<ねらい> 町内の各施設を把握する
<対象> 各施設職員→町民→観光客という順番で広げる
<すすめ方> お互いの施設見学→施設一覧表の作成→観光客（人とのつながりを大事にリピーターを増やす）

アドバイザーからの意見

- ・企画案をひとつでも実現できるようにする

(3) 水源地域対策アドバイザー派遣概要

開催日時 平成20年12月16日

開催場所 ラーニングアール横蔵

参加者

水源地域対策アドバイザー	岡部 恵美子
国土交通省水源地域対策課	竹川 誠
揖斐川町水源地域ビジョン担当参与	小森 勝義
揖斐川町水源地域ビジョン推進課長	川瀬 雅治
揖斐川町水源地域ビジョン推進課	日下部 芳文

揖斐川町商工観光課次長	竹中 保昭
揖斐川町商工観光課	原 武弘
独立行政法人水資源機構中部支社	王野 高久
独立行政法人水資源機構中部支社	太田 敦司
独立行政法人水資源機構徳山ダム管理所	青井 保男
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	成瀬 富士一
(財) いびがわ 生命の水と森の活動センター	林 将史
諸家の里	田中 正敏、田中 駿意
(株)藤橋ビレッジ	長屋 昭二
財団法人 いびがわ	中野 敦子、宇谷 次郎
森の文化博物館	藤原 千蔵
NPOぎふいび生活楽校	小林 正美、高橋 満治、斉藤 邦雄
岐阜大学地域科学部	有本 信昭
山菜の里いび	小寺 春樹
揖斐川町商工会	小里 幸男、大口 薫、服部 均、 牧村 英幸、桐山 豊
東光寺住職	鷺見 邦隆
観光カリスマ	中川 満

議 題 水源地域対策アドバイザー調査報告会

アドバイザーよりを見学して感じたことなど

①揖斐地域は恵まれた地域である

<メリット>

- ・名古屋を中心とした中部圏（都市圏）を控えていて「地の利がいい」
- ・団塊の世代を中心としたマンパワーがある
- ・行政の理解がある（事務局・仕事として取り組める）
- ・各施設ともそこそこの採算がとれている

<デメリット>

- ・他のダムなどを見てきたがダムにはだいたい集落がある。しかし、揖斐には集落がない
- ・会わなかっただけかもしれなが、女性の方たちの意見、顔の見える女性の意見がなかった。
- ・たくさんの施設、取組があるが、類似施設が多い。ゾーンを決めての「個性化」が必要である。

②入り込み観光客を増やす方策

- ・揖斐川町には年間220万人の観光客があり、谷汲山・横蔵寺の2つのお寺で120万人となっている。この集客力を観光・地域に愛着を持った応援団をつくる。また、各自が軽トラに自家製野菜を持ち寄り、そのまま駐車場で市を開いたり、ガラクタ市などのナイトバザールを開くと良い。

各施設を見学して

【ラーニングアーバー横蔵】

- ・おしゃれ、清潔、気配りができている
- ・活動などバラエティーに富んでいる
- ・男性的である（一抹の緊張感があるので、女性を入れると温かさが加わりいいのではないか）
- ・定期的な研修（ゼミ・合宿など）経営が安定するようなお客を獲得するとよい
- ・新しい客層を獲得する。例えば、外国の人に発信をするなど。

【谷汲門前】

- ・谷汲門前の空店舗を利用する。軽トラ市、ナイトバザールなど肇は何ヶ月に1回とか月に1回とかの頻度で借用し、よければ通年とする
- ・女将さんの会を作る。（研究などを行うことにより、女将さん達から新しいアイデアが出てくる）

【道の駅「星のふるさとふじはし」】

- ・店員に声をかけても細かい話をしてくれない。コンシェルジュ的な人材を配置する。「カウンター越しではなく、商品の前でPRする」
- ・近隣市町村かわの誘客を促すため、産直の野菜を売ってはどうか
- ・他の道の駅でシイタケのほだ木が人気だったので売れるのではないか

【徳山民俗資料収蔵庫】

- ・館長夫妻のゆっくりお茶を飲みながらのミニサロンができないか
- ・環境教育・郷土芸能の披露の場として使えないか
- ・旧徳山住民に「同窓会・同級会」も呼びかけをしてはどうか

【ふじはし星の家・藤橋城・西美濃天文台・藤橋歴史民俗資料館・水と森の学習館】

- ・各施設連携による新しい滞在型プランの提案をしてはどうか（古民家での朝食、夫婦星座ウォッチング、ジャズフェスティバルなど）

【徳山会館】

- ・ 景観を楽しめるスポットがないので、イスや日陰を作る。
- ・ 水源サポーターの仕組み作りとチラシなどで募集する
- ・ 特徴のある食べ物などを出す。(地元で取れた野菜をバイキング形式で出すなど)

【森の文化博物館】

- ・ 家族向けをターゲットにする
- ・ ツリーライティングなどをしてはどうか



▲調査報告会

意見交換会

- ・ 徳山ダムを見て帰るだけではリピーター客はできない。いかに付加価値を付けて観光客を呼び込むかが大切である。そのためには、受入態勢（案内人・食事・宿泊など）をしっかりとる必要がある。そして、地元の方の協力を得ることが一番大事である。
- ・ 各地域の特性を生かしながら、揖斐川町全体でひとつの目標を決め、それに向かって頑張るとよい。
- ・ 揖斐にはたくさん面白いところがある。しかし、情報の発信が少ない。全国に情報を発信し続けて面白さを伝えることが大切である。
- ・ 各地域でみなさん一生懸命やっているが情報などが共有化されていないので共有化できるともっとうまくいくと思う。
- ・ 素晴らしい施設があり、素晴らしい人もたくさんいることがわかった。このネットワークを活かしてできることからひとつずつ実現していきたい。
- ・ 会議の時だけ元気で会議が終わったら静かになることが多いので会議後もこのような会を開いていくと良い。

まとめ

1) 課題解決と新戦略づくりに向けて

①情報や窓口の一元化を図る

- ・ HPの作成、施設等の合同パンフレットの作成、アナログ掲示板（公共のお風呂など壁面にボードを置いておく。1スペースいくらかスペースを貸しだししているところもある）
- ・ ターゲット・年代などを絞ったりしてPRしていく。ターゲットごとの的確な情報の届け方をしてほしい

②シンクタンク・モザイク的プロジェクトを実施する

- ・ 役割分担をして実施していく。

2) 今後の実施体制

- ・時間等制限もあると思うが、ゆったりとした集まり少数で構成し、今まで話し合ってきた課題を解決したり新戦略に向けて取り組む体制を作ってはどうか。水縁フォーラム（仮称）を実施して実現するようにする。